



「塩川書店五橋店」2代目店主の
塩川祐一さんは9日、仙台市



「少年ジャンプを読めます!!
一冊だけあります」と書
かれた塩川書店五橋店店頭
の張り紙
＝2011年3月28日、仙台市

「1冊のジャンプ」 街の本屋閉店へ

仙台・経営難で
1962年創業の「塩川書店五橋店」は大きな揺れで、商品が棚から落ちて散乱した。だが電力回復が早かったこともあり、2代目店主の塩川祐一さん(61)は「怖がる子どもたちに絵本や漫画を読んでもらいたい」と3日後には営業を再開。夜遅くまで明かりがともる店は、不安な時間を過ごす1人暮らしの人らのたまり場になった。
19日は少年ジャンプの発売日。配送は当然なかったが、山形県で食料調達をした際に買った知人が「読み終えたから」と譲ってくれた。これが「伝説のジャンプ」と呼ばれることになる。「少年ジャンプ読めます!! 一冊だけあります」。
店には、今でも当時の子どもが張り紙をする、たちまち子どもたちが列をつくるという。塩川さんは経営が厳しくても「無理してでも続ける価値がある」と、医療事務の副業をしながら妻と二人三脚で踏ん張り続けた。だが売り上げ回復は難しく、閉店を決断した。
苦業を共にした店での日々について「ひとの触れ合いがあった。お金で買える経験ではなく、いい仕事だった」と振り返る。震災時は「誰かのためにやりたい」と思って読んでもらったジャンプが、大勢の人を笑顔にした。

2011年3月11日の東日本大震災直後、仙台市の小さな本屋で子どもたちが1冊の「週刊少年ジャンプ」を回し読みした。物流停滞の中で店主が手に入れた貴重な最新号。大人気漫画の「ONE PIECE(ワンピース)」や「NARUTO(ナルト)」を楽しみに100人以上が集まり、後に中学道徳の教科書にも取り上げられた。その本屋が8月末、経営難で閉店する。



塩川書店五橋店で子どもたちが回し読みした「週刊少年ジャンプ」(集英社提供)

震災直後子どもたちに笑顔とます

▲ 8月18日 福島民友新聞掲載

「伝説のジャンプ」はどんな本ですか。

今、それはどんな状態でどこにありますか。

地域の書店が閉店するケースが増えています。みなさんはこのことについてどう考えますか。